

跛行を呈したケーブペンギンの飼育管理について

○橘みゆき, 秋吉未来, 藤森佳奈, 福永芳樹, 和田夏海
(マリンワールド海の中道)

マリンワールド海の中道では現在 27 羽のケーブペンギン *Spheniscus demersus* を飼育している。そのうちの 1 羽(国内血統登録 881, 個体名:ライム, 雌, 15 歳)が 2023 年 3 月と 8 月に跛行を呈し歩行困難となったが, その後の管理で通常の歩行まで回復したので経過を報告する。2023 年 3 月 27 日, 屋外展示中に左肢の跛行(ナックリング)を確認した。その後運動を制限するために屋内に収容した。翌日に症状は緩和されたが, 第 3 病日に再度第 1 病日と同様の症状を呈し歩行困難となった。また, ナックリングによる左肢甲部分の擦過傷を確認した。その後は運動制限を継続することで少しずつ改善が見られた。症状に改善が見られてきたため屋外での展示時間を徐々に増やし経過観察した。第 64 病日には正常歩行となったため, 通常展示に復帰した。しかし, 8 月 6 日屋外展示中に 3 月と同様の症状が確認され, 再度歩行困難となった。屋内に収容し運動制限を開始することに加えて, 犬用のナックリング防止用サポーターを改良したものを装着した。第 2 病日に症状の緩和が見られないためトラマドール 1.8mg/kg を投薬, 第 10 病日に 2.6mg/kg へ増量した。その後徐々に歩行が改善したため, 第 17 病日に屋外で運動できるように短時間の展示を開始した。第 28 病日にトラマドールを休薬し, 第 34 病日には正常歩行となったため, 通常展示に復帰した。

今回の症状に対して行った運動制限やトラマドール投与は, 改善までの経過は長いですが症状を緩和する効果が確認された。また, 補助的にナックリング防止サポーターを使用することで, 歩行を補助する役割を果たし, 行動制限を解除するまでの時間が短縮されるなど, 飼育管理の面で有効であったと考えられる。